地域づくりに向けたみんなの取組

資源の循環に関する取組

食品ロス削減に役立つレシピ

食品ロスの削減に向けて、国では「食品ロス削減国民運動（NO-FOODLOSS PROJECT）」を展開しています。この一環として、食品の生産から販売までの各段階における食品ロス削減の取組を推進しており、例えば、包装内を窒素で満たすことによる品質保持、食べきりの呼びかけなどに取り組んでいます。

2013年度には、消費者庁が食品ロスの削減に向けて、先進的な取組を行う地方公共団体の支援を行ったところ、多数の「食材をむだにしないレシピ」が消費者庁に寄せられました。これらのレシピを各地方の郷土料理の紹介などと一緒により多くの人に伝えるために、料理レシピサイト「クックパッド」で紹介しています。

また、2018年8月からはクックパッド株式会社が「クリエイティブ・クッキング・バトル」という対戦トーナメント形式のイベントを開催しています。余った食材で工夫をして、自由においしい料理をつくる能力に焦点を当てたイベントで、楽しみながら食品ロス対策に必要な考え方に気づいてもらうことを目指しています。

これまで捨てていた野菜の皮や茎も、冷蔵庫に残った半端な野菜や余った料理も、捨てる前にレシピを探したり、考えてみたりしてください。捨てていたものから、おいしくて地球と家計にやさしい料理ができるかもしれません。

●食品ロス削減国民運動のロゴ

食べものに、
もったいないを、
もういちど。
NO-FOODLOSS PROJECT

資料：農林水産省

●クリエイティブ・クッキング・バトルの様子

資料：クックパッド株式会社

自然資源を利用した取組

コウノトリと共に生きる（兵庫県豊岡市）

かつて日本各地で見られたコウノトリは、生息環境の悪化により数を減らし、1971年に日本の空から姿を消しました。兵庫県豊岡市では、絶滅する少し前からコウノトリを守ろうと、1965年に人工飼育を始め、1989年には待望の人工繁殖に成功し、2005年、再びコウノトリが日本の空を舞いました。現在では、野外でもヒナが誕生しており、100羽をこえるコウノトリが同市を中心とした野外で暮らしています。

コウノトリは水田などの湿地でカエルやドジョウなどを食べて暮らすことから、野外で暮らしやすい環境をつくるために、2003年からは、農薬や化学肥料にたよらない「コウノトリ育む農法」を始めました。この農法で栽培された米は、一般的な農法に比べて1.3倍から1.6倍の価格で買い取られており、農家の収入の増加につながっています。環境を良くする取組により経済が活性化し、それがもととなってさらに取組が広がるという、環境と経済が共に影響し高め合う関係ができ上がっています。

地元の子どもたちも、生き物調査をはじめ、コウノトリの野生復帰の取組に参加しています。2017年度からは市内の全小中学校で「ふるさと教育」が始まり、コウノトリや地元の自然について学んでいます。こうした取組は、自分が生まれ育ったふるさとに対する愛着と誇りを育てることにつながっています。

●コウノトリと少年

●コウノトリ育むお米

●子どもたちの生息地保全活動

資料：兵庫県豊岡市

再生可能エネルギーに関する取組

地元密着企業で地域を元気に（鳥取県米子市）

これまでは、火力発電や原子力発電のように大規模で集中的に発電が行われていました。しかし、災害が起きてその設備が止まった場合、広い地域で大きな影響が出てしまいます。2016年に電力に関する制度が変わってからは、小規模で各地に分散した発電も行いやすくなりました。再生可能エネルギーは地域で作り、地域で使う「地産地消」に適したエネルギーのため、各地で再生可能エネルギーを使った小規模発電の取組が進められています。

鳥取県米子市では、生産したエネルギーをその地域で消費することで、地域のお金の流れを活性化させること、地域に働く場所を生み出すことなどを目的に、地元企業5社と共同で「ローカルエナジー株式会社」を2015年に設立しました。同社では、米子市やその周辺での廃棄物発電、太陽光発電、地熱発電などといった再生可能エネルギーで作られた電力を積極的に活用しています。

また、同社は、地域内に必要な電力量の予測を行って自社だけでは余ったり不足したりする電力を売買して調整し、電力がしっかり供給されているかを確認したりするといったことを自ら実施しています。これにより、地域の天気やイベント、学校の行事など地域の特性に合わせた最適な電力提供を可能とするとともに、地域に新たな仕事を生み出しています。

地域の再生可能エネルギー等を活用し、地域に密着して電気やガス等を供給する公的な企業をドイツでは「シュタットベルケ」と呼び、地域の活性化につながっています。米子市ではこのシュタットベルケに習い、地元密着企業で地域を元気にする取組が積極的に進められています。

● 廃棄物発電施設

資料：鳥取県米子市

● 太陽光発電施設

資料：シャープ株式会社

地域のつながりを活かした取組

人と電気のつながりによる都市と農山漁村の交流（東京都世田谷区、群馬県川場村）

東京都世田谷区と群馬県川場村の交流は、世田谷区が1981年に区民の第二のふるさとづくりを目的として川場村と協定を結んだことをきっかけにスタートしました。以来、世田谷区と川場村の交流を発展させるため、世田谷区の小学５年生を対象に、川場村の豊かな自然の中で農作業や登山、村巡りを行う移動教室や、川場村の自然環境を区民・村民が協力して守り育てる活動などを行ってきました。

こうしたつながりがあり、自然エネルギーを介した新たな交流の発展として、2016年2月に自然エネルギー活用による発電に関する取り決めを結びました。川場村で新たに地域の森林資源を活用した木質バイオマス発電を立ち上げ、川場村で発電した電気を世田谷区民が購入するという仕組みをつくりました。ほとんどが住宅地であり、大規模な自然エネルギーを生み出すことが難しい世田谷区では、川場村との交流や自然エネルギーを通じた地域どうしの協力の仕組みが、他の市区町村にも広がるように取組を進めています。

● 林業体験の様子

● 農業体験の様子

● 川場村にある発電所の見学ツアー

資料：東京都世田谷区、群馬県川場村